

透析患者の難聴とフレイルの関連

医療法人衆和会 長崎腎病院

○本田 綾 林田征俊 舩越 哲

【背景】

現在日本における透析患者の平均年齢は69歳であり、透析患者全体の約8割を占めている。老年症候群の中で難聴は最も頻度が高く、フレイル発生の要因の一つと言われている。一方透析患者は健常者に比し高率にフレイルを認める事が報告されている。

【目的】当院の透析患者の聴力とフレイルの現状を把握し、臨床因子との関連について明らかにする

【研究方法】

重度の認知症や高度難聴のない維持透析患者229名を対象にJ-CHS基準を用いてフレイルを評価し、オーディオメーターを用いて聴力を測定した。得られたデータを単純集計し、フレイル、聴力、透析歴等を変数として統計学的に分析した。

【結果】

平均年齢69.1歳、平均透析歴8.2年、性別は男性150名であった。フレイル判定は、フレイル24.8%、プレフレイル63.3%、ロバスト(健常)11.7%であった。聴力測定では低音域(1000Hz)の難聴を69%、高音域(4000Hz)の難聴を80.3%が有していた。フレイルと臨床因子の相関分析では年齢、透析時間、身長、難聴(低音域・高音域)、介護度、糖尿病に相関を認めた。またフレイルには、低音域の難聴あり、糖尿病あり、年齢(高齢)が影響していた。

【考察】

当院の透析患者もフレイルやプレフレイルに該当する患者が多く、低音域の難聴や糖尿病が影響していた。先行研究において透析患者の腎性貧血による難聴や、糖尿病によるフレイル発生在報告されており、今回の結果も同様の因子が影響している可能性があると考えられる。